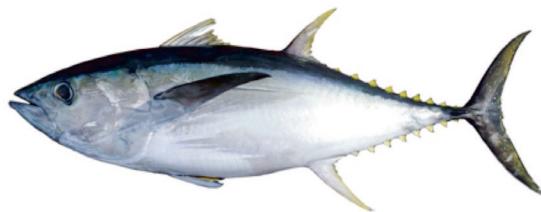


メバチ インド洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*

管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

最近の動き

2016 年 11 月に実施された資源評価に基づき、資源は過剰漁獲でも乱獲でもないとされた。2016 年の第 20 回 IOTC 年次会合において、まき網漁業の人工浮き魚礁 (FADs) 数制限（前年に決定した内容の改定）及び支援船数制限が管理措置決議として採択された。

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：10～15 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上 の海域
- 索餌期・索餌場：4～9 月に南半球温帶域に現れるほか、温帶域と熱帶域を複雑に回遊
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：サメ類、海産哺乳類

利用・用途

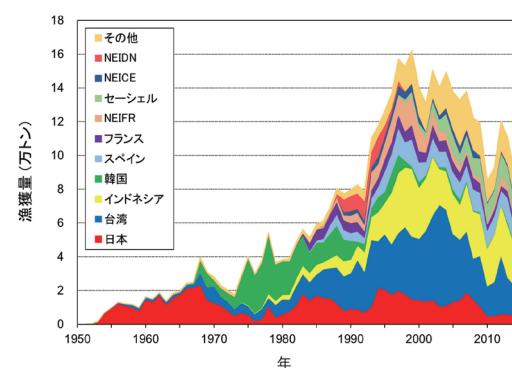
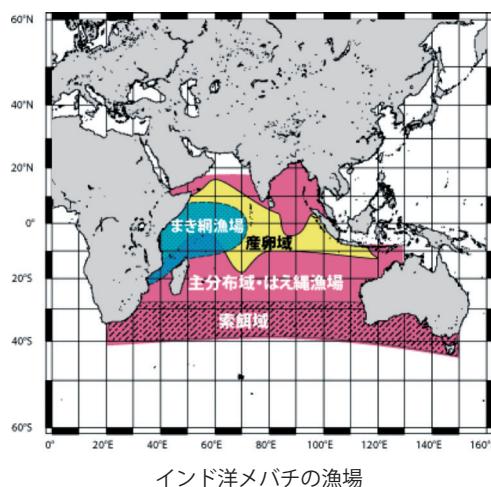
刺身や缶詰原料

漁業の特徴

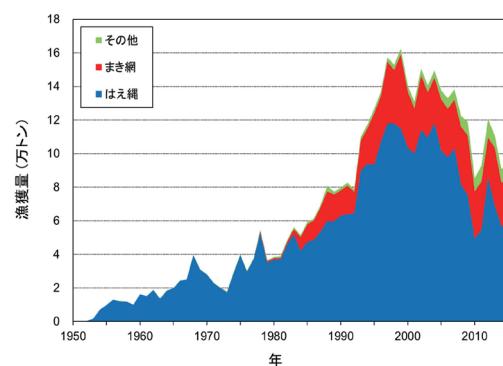
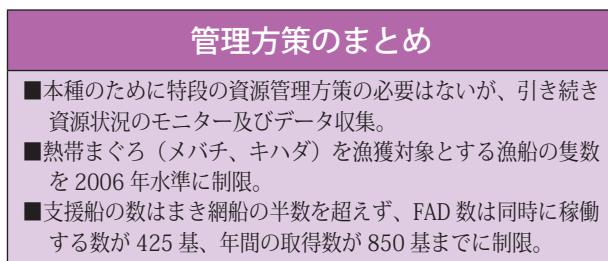
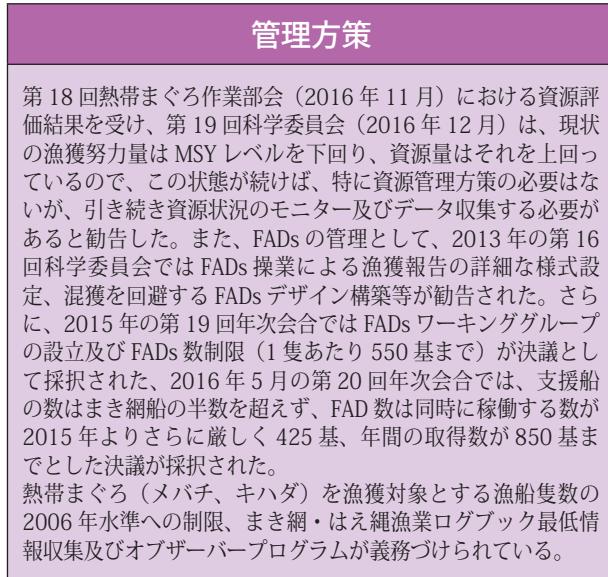
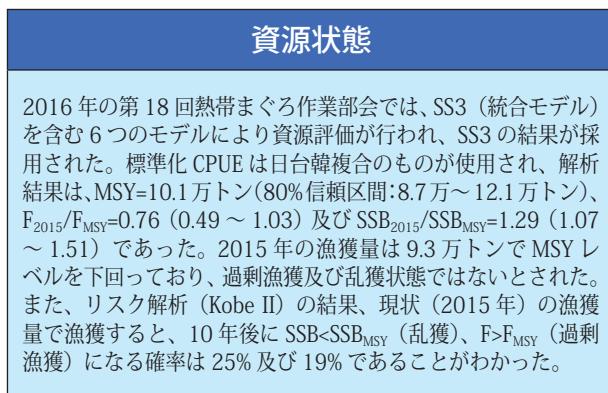
本種ははえ縄漁業（2 歳以上対象）とまき網漁業（0～1 歳対象）で主に漁獲される。本資源のインド洋における漁獲は日本のはえ縄漁船により、1952 年にジャワ島南部海域で始まった。その後、台湾、韓国のはえ縄漁船がそれぞれ 1954 年、1965 年から参入した。まき網の主要漁業国はスペイン、フランスである。西インド洋の EU まき網開始（1984 年）以前は、はえ縄による漁獲が大半で主に 2 歳魚以上であったが、まき網による 0～1 歳の漁獲尾数が急増し、最近（2011～2015 年）では総漁獲尾数の 5 割近くを 0～2 歳が占める。最近 5 年間の漁法別の漁獲量は、はえ縄 63%、まき網 29%、その他 9%、また海域別では FAO 海域 51（西インド洋）における漁獲量 60%、FAO 海域 57（東インド洋）40% となっている。

漁獲の動向

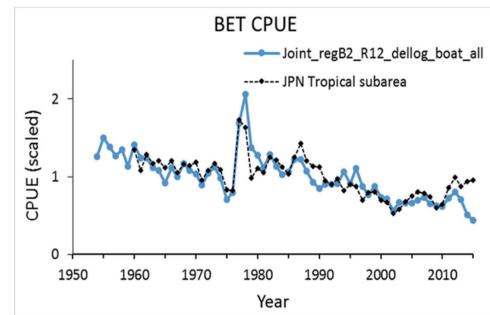
はえ縄漁業による漁獲量は、操業開始以来緩やかに増加し、1992 年に 6.5 万トンに達した後、1993 年に 9.0 万トンに急増し、1998 年には 11.8 万トンとピークに達した。1999 年からはいったん減少したものの、その後再び増加し、2004 年には 11.8 万トンと 2 度目のピークに達した。しかし、その後減少し、2010 年には 4.9 万トンになり、1984 年以降最低レベルとなった。その後は再び増加に転じていたが、2013 年以降は減少し、2015 年は 5.4 万トンであった。一方、まき網漁業は 1984 年より西部インド洋で本格的に始まり、漁獲量は徐々に増加し、1999 年には 4.4 万トンとピークに達した。しかし、その後 2 万～3 万トンで変動を伴う横ばい傾向で、2015 年には 3.0 万トンとなった。総漁獲量は、操業開始以来増加し、1986 年に 6 万トン台になった。1993 年から急増し、1993 年に 10 万トン台、1999 年に 16 万トンとピークに達した。その後、2000 年から減少傾向が続き、特にソマリア沖海賊の活動が強まった 2010 年に 8.5 万トンと 1993 年以降最低レベルとなった。2012 年に海賊活動がなくなって漁獲は 12.0 万トンに増加したが、その後微減し、2015 年には 9.3 万トンになった。



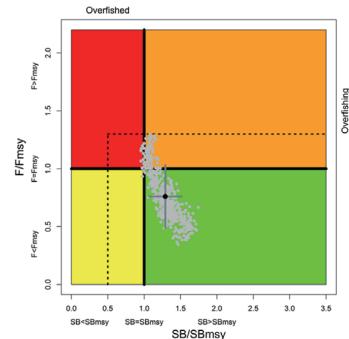
インド洋メバチの国別漁獲量（1950～2015 年）
(IOTC データベース：2016 年 9 月 NEI：Not Elsewhere Included、
DN, FR, CE はそれぞれ流し網、冷凍、生鮮の意味)



インド洋メバチの漁法別漁獲量（1950～2015 年）
(IOTC データベース：2016 年 9 月)



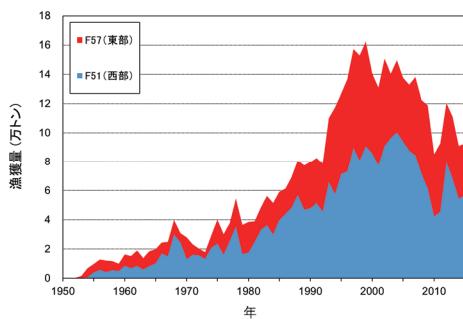
日本、韓国、台湾のまぐろはえ網漁業データを複合したメバチ標準化 CPUE（熱帯域・年別）及び日本のはえ網漁業 CPUE との比較



インド洋におけるメバチ資源評価（SS3）結果に基づく Kobe プロット（2015 年の資源状態：6 シナリオ統合）(IOTC 2016a)

メバチ（インド洋）の資源の現況（要約表）(*)	
資源水準	中 位
資源動向	増 加
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	9.1 万～12.0 万トン 最近（2015）年：9.3 万トン 平均：10.2 万トン（2011～2015 年）
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.4 万～0.6 万トン 最近（2015）年：0.4 万トン 平均：0.5 万トン（2011～2015 年）
最新の資源評価年	2016 年
次回の資源評価年	2019 年

(*) 2015 年までのデータを使用した資源評価の結果に基づく



インド洋メバチの海域別漁獲量（1950～2015 年）(IOTC データベース：
2016 年 9 月) 東インド洋（FAO 海域 57）、西インド洋（FAO 海域 51）